

## 8月 月例報告書

まず、空港に着いた日に University of Findlay の方達が車で迎えに来ていただくという予定だったのですが、なかなか時間通りにいかず、その日大学内に着いたのが深夜の1-2時くらいでした。初日から時間にルーズなカルチャーを実感しました。それからの1週間はオリエンテーションや、留学生に向けての説明会、IELPのクラス分けのためのテストなどが盛り込まれており、かなり忙しい日々を過ごしました。正直この最初の1週間がとても体力的にも精神的にも辛かったです。フィンドレーの学生から留学生に喋りかけてくれることはほとんどないので、自分たちから喋りかけなければいけないのと、喋りかけても中々相手の話していることが分からず、話が弾まないことが辛かったです。しかし、1週間のオリエンテーションや説明会があったおかげで、喋りかける練習の機会、友達をつくる機会を与えられたので、これらがあって良かったと思っています。

また、フィンドレー大学に着いてから、ミールプランの選択や、授業料等の支払い、学部授業を取るのかなどを決めることが大変でした。授業料を支払う際、日本の銀行から送金で支払う場合は、フィンドレー大学からの正式な請求書が必要であること、審査があるので送金に時間がかかることを把握しておくことが必要であると知りました。フィンドレー大学に着いてからは、こういった事務的な手続きに追われるので、それも相まって非常に忙しかったです。

授業に関しては、私は IELP の授業のみを履修しています。その他に青木先生の「Selected the topics」という日本の映画を見て、その後映画に描写されている日本の文化や日本人特有の考え方や感じ方について討論する授業と、川村先生の「English for Specific Purpose」という授業を聴講として取っています。IELPの授業に関しては、Reading、Composition、Communication skills、Grammarの授業に分かれています。しかし、Readingの授業だからReadingばかりするわけではなく、様々な活動で授業が行われています。フィンドレー大学に着いてから数日後にテストが行われ、レベル別にクラスが分けられました。テストは紙媒体ではなく、パソコンで受けるもので、ReadingとListeningの2つでした。その他 Undergraduate の History のクラスを聴講しようとしたのですが、課題の量が非常に多く、自分の許容範囲を超えたため、断念しました。

次に、Housing に関してですが、フィンドレー大学に着く前は「Lovvet hall」という寮の二人部屋で希望を出していましたが、最終的に二人1部屋の12人のシェアハウスで住むことになりました。12人のうち、私を含めて4人の日本人留学生がいるので困ったことがあった時は助け合いができるので安心して生活できており、その他の8人のルームメイトやハウスマイトはアメリカ人であるのでネイティブスピーカーと少しでも英語で話せる機会が設けられており、とても恵まれた環境であると感じています。休

日にハウスメイトとお昼ご飯を一緒に食べに行くこともあり、また買い物に連れていってくれるので、ハウスメイトはとても大事な存在です。私のルームメイトはアメリカの女の子なのですが、毎日寝る前に5～10分程度話す習慣が出来ていて、1日のうちアメリカの人と話すタイミングがなくても、ルームメイトがいてくれるおかげで毎日話せるのでとても助かっています。もしHousingで悩んでいる人がいれば、寮での生活がどんなものかは分からないけれど、寮の2人部屋で生活するよりも私が現在住んでいる12人のシェアハウスのほうがアメリカの友達を作るチャンスが多いのではと思うので、シェアハウスをおすすめしたいです。今のところ、シェアハウスで文化の違いによって困っていることは無いです。

